

# 日本語文法学会

第24回大会

The Society of Japanese Grammar

2023 12/2(土) - 3(日)

【会場】  
関西大学千里山キャンパス第3学舎  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35  
最寄駅：関大前駅

12.2 (土)

13:00—	受付開始			
研究発表	<b>A会場 (1号館A201)</b>	<b>B会場 (1号館A301)</b>	<b>C会場 (4号館D302)</b>	<b>D会場 (4号館D401)</b>
13:30—14:10	【司会】窪田悠介 (国立国語研究所) 招待 田村早苗 (北星学園大学) コミットメントの形成とモダリティの意味論的分析	【司会】川瀬卓 (白百合女子大学) 赤尾莉央 (南山大学大学院生) 接続助詞「の」の情意的意味についての史的考察 —特にその定着段階について—	【司会】丸山岳彦 (専修大学) 中山健一 (茨城キリスト教大学) 新しい文法形式「まである」の意味と構文的特徴	【司会】志波彩子 (名古屋大学) 道法愛 (広島大学大学院生) シナイの「未完了」における話し手の“想定” —否定形式からみるスルの特性—
14:20—15:00	坂本瑞生 (東北大学大学院生) 叙述類型を特徴づけるものの再検討 —イベント項と外心構造による交差分類—	招待 田中草大 (京都大学) 変体漢文における助動詞「令」の意味と機能	米村雪乃 (東京外国語大学大学院生) 「動詞+シカナイ」の意味・用法について	前田ゆかり (専修大学大学院生) 動詞のル形とタ形で修飾される「ところ」の内容語的用法について
15:10—15:50	藏藤健雄 (立命館大学) 焦点化単数主語をともなう複数性動詞について	遠藤小春 (関西大学大学院生) 副詞「ずっと」の歴史的変遷 —関連語との関わりから—	榎原実香 (東京工業大学) 「不定語+デモ+ガ」はいつ使用されるか —叙述の型に着目して—	角出凱紀 (京都大学大学院生) 比喩を含む動詞由来複合語の位置付け
15:50—16:10	休憩			
16:10—16:50	【司会】江口正 (福岡大学) 河本健汰 (東京大学大学院生) 西畑宏紀 (大阪大学大学院生) 南の階層構造に基づくもの周辺の用法の考察を再考する	【司会】林淳子 (慶應義塾大学) 末吉勇貴 (関西大学大学院生) 中古・中世前期における連体節のテンス・アスペクト形式と事態の順序の関係	【司会】平子達也 (南山大学) 招待 中川奈津子 (国立国語研究所) 日琉諸語における主題標識の種類と格標識	【司会】永澤清 (上智大学) 孫之依 (関西学院大学大学院生) 連体助詞「の」の過剰使用と脱落に関する一考察 —固有名詞を中心に—
17:00—17:40	近藤幸知 (九州大学大学院生) とりたて助詞「も」の意味の記述と新しい統語構造の提案	鴨井修平 (日本学術振興会特別研究員-PD) 日本語諸方言の持続形式における待遇化の動機	吳曉艶 (東北大学大学院生) 一発話内修復の分類 —『日本語話し言葉コーパス』を例に—	中西久美子 (京都外国語大学) 日本語学習者による主題の「は」の不使用の実態とその使用意識 —なぜ日本語学習者は主題を過度に省略するのか—
18:00—20:00	懇親会			

12.3 (日)

9:10—	受付開始			
	パネルセッション(大会委員会企画)		パネルセッション(一般)	
9:40—11:40	<b>A会場 (1号館A201)</b> ノダ文研究の現在地 —ノダの時空間変異から見た研究の展開— 【司会】林淳子 (慶應義塾大学) 【発表】 1. 幸松英恵 (東京外国語大学) ノダとノサ —「ノダ文」の用法の時間的変異— 2. 林淳子 (慶應義塾大学) ノとノデスカの成立 —「ノダ文」の疑問文型の時間的変異— 3. 野間純平 (島根大学) ノのない方言の「ノダ文」 —「ノダ文」の空間的変異—	<b>B会場 (1号館A202)</b> 作文の表現力と発達 —資源構築から分析と評価へ— 【司会】宮城信 (富山大学) 【発表】 1. 今田水穂 (筑波大学) 作文コーパスの用途と設計について 2. 清水由貴子 (聖心女子大学) 児童・生徒の作文に見られる誤用 3. 田中弥生 (国立国語研究所) 児童の作文における表現の脱文脈化観点による可視化 4. 砂川有里子 (筑波大学名誉教授) 機能語的な副詞の調査 —母語話者児童生徒と第二言語学習者の比較—	<b>C会場 (1号館A301)</b> 一語から始める文法研究 —さまざまな手法を用いて— 【司会】建石始 (神戸女学院大学) 【発表】 1. 建石始 (神戸女学院大学) 「全く」から始める文法研究 —コーパスを用いた出現位置に関する研究— 2. 許燕 (名古屋大学大学院生) 「一応」から始める文法研究 —出現形から意味・用法へ— 3. 朴秀娟 (神戸大学) 「なかなか」から始める文法研究 —コンテキストに着目した意味・用法の分析— 4. 帖佐幸樹 (東亜大学) 「用」から始める文法研究 —日本語母語話者の文予測調査の結果を用いて—	<b>D会場 (4号館D302)</b> コーパスによって近現代140年の日本語文法の変化を探る —『日本語歴史コーパス』と『昭和・平成書き言葉コーパス』を用いて— 【司会】田中牧郎 (明治大学) 【発表】 1. 田中牧郎 (明治大学) 『日本語歴史コーパス』『昭和・平成書き言葉コーパス』の特徴を生かした近現代語の史的変遷について 2. 近藤明日子 (東京大学) 近現代の口語体書き言葉における逆接の接続詞の通時的変化 —『日本語歴史コーパス』と『昭和・平成書き言葉コーパス』を用いた分析— 3. 小木曾智信 (国立国語研究所) 『日本語歴史コーパス』と『昭和・平成書き言葉コーパス』に見る可能表現形式の変遷 4. 永澤清 (上智大学) 『日本語歴史コーパス』と『昭和・平成書き言葉コーパス』から見る「取り返す/取り戻す」の類義関係の変遷
11:40—12:50	昼食			
12:50—13:15	会員総会 4号館ソシオAV大ホール			
13:15—13:35	大会式典			

第24回大会シンポジウム  
(言語系学会連合共催)

## 「意味論研究の新地平」

- 講師1: 大谷直輝 (東京外国語大学) 用法基盤モデルが想定する言語知識のありようについて考える  
講師2: 峯島宏次 (慶應義塾大学) 言葉の意味をどのように説明するか  
—形式意味論と分布意味論を比較する観点から—  
コメンテータ: 三宅知宏 (大阪大学) コーディネータ・司会: 窪田悠介 (国立国語研究所)

一般無料公開

主催: 日本語文法学会 www.nihongo-bunpo.org  
会長: 前田直子  
大会委員長: 宮地朝子  
開催校責任者: 高梨信乃

◎参加費: 第24回大会は、原則として事前の参加申し込みが必要です。大会参加費は、会員の方は2,000円、学生会員の方は1,000円です。非会員の方、会員で当日参加の方は3,000円です。シンポジウムのみ参加の方は無料です。今大会では、予稿集をデジタル化します。参加申し込みをいただいた方に予稿集PDFの閲覧URLをお知らせします。  
※大会参加申し込みの方法や、大会プログラムの更新情報は、随時、学会ホームページ(「大会」ページ)・会員一斉メールでお知らせしていきます。

